

4－8			
主題	認知症の方の周辺症状の改善		
副題	認知症の症状に合わせた対応		
キーワード1	センター方式	キーワード2	研究(実践)期間
			6ヶ月
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	くらら中村橋		
発表者(職種)	野上みのぶ		
共同研究(実践)者	くらら中村橋 ホームスタッフ		
電 話	03-3577-0711	FAX	03-3577-0712
今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都練馬区中村 3-40-4 54 室【定員 54 名】 「家庭らしさ」を大切に生活の中で役割を担い、元気いっぱい過ごしていただけるようなサポートを心がけています。さまざまなケースの認知症の方にもお応えできるよう努めています。ご本人を中心によりよい暮らしを応援します。リビングには明るい笑顔が満開です。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

認知症により

- ・日中を通し何がわからないのかがわからなくて困惑し混乱が続く状態。
- ・活気がなく、表情が乏しくなり、うつむき背中を丸めて歩いている状態。
- ・食事・水分が取れなくなってしまった状態。

そのため、ご本人様が本来のご生活を送れていない状況であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

＜目的＞

- ・ご本人様の穏やかで安心したご生活を取り戻す。

＜仮説＞

- ・お困り事や、活気の無い原因をセンター方式を活用し把握。ホーム全体で対応策を考え実施することで改善を図れるよう取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

対象者：くらら中村橋 ご入居中利用者

内容：

- ・今までのご生活のご様子や、好きな食べ物、習慣、ご近所とのお付き合いなどを知る。→ご家族様にご協力いただき B-2、B-3 シートを使用。
- ・1 日のご気分を知る→24 時間シート D-4 シートを使用。
- ・ご病気や服薬情報を知る→A-3 シートを使用

期間：6 か月

手順：ご利用者様の困りごとの把握

情報の整理

統一したケアの実践

医療機関との情報連携

職員数や構成：ホーム職員、協力医療機関

必要とした道具や費用：センター方式シート

《4. 取り組みの結果》

・ご本人様にとっての「いい一日」を理解することができた。

〈ご本人様〉

- ・薬が抜けてきた頃から笑顔が戻ってきた。
- ・落ち着いている時間が少しずつ増えてきた。
- ・食事・水分が少しずつ取れるようになってきた。

〈スタッフ〉

- ・適切な見守りを行うことで、混乱する時間が長引かない。
- ・統一したお声かけをする重要性を再認識できた。

《5. 考察、まとめ》

- ・認知症による周辺症状（BPSD）の軽減に必要なのはスタッフ力。
- ・医療との連携をするにあたり、お互いにどのような情報がほしいのかしっかり話し合い、連携を密にすることが重要。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

センター方式シート

認知症介護研究・研修東京センター(0503)

《8. 提案と発信》

認知症のケアは、お一人お一人対応が違い、同じようなかわりでは解決することが難しい。ただ、その方をより深く知ること、その情報をケアに携わる人が共有し、統一を図ることで認知症も、安心してすごくことができる。